

令和元年度 第2回安城市環境審議会議事録要旨

日 時	令和2年2月25日(火)午後1時30分～3時	
場 所	安城市役所本庁舎災害対策本部室	
出席者	委 員	伊吹会長、平岩副会長、鈴木委員、浅田委員、飯尾委員、板倉委員、岩井委員、中尾委員、野村委員、熊田委員、久恒委員、大野委員、都築委員 13名
	事務局	環境部長、環境都市推進課長、環境都市推進課長補佐、環境都市推進課環境衛生係長、環境都市推進課職員
次 第	1 会長あいさつ 2 環境部長あいさつ 3 議 題 (1) 第2次安城市環境基本計画の骨子案について (2) 市民・事業者における行動・取組調査の結果について 4 その他	

1 会長あいさつ

2 環境部長あいさつ

3 議 題

(1) 第2次安城市環境基本計画の骨子案について

<説明事項>

【事務局】

- ・第2次安城市環境基本計画の骨子案について<資料1>
- ・第2次安城市環境基本計画における施策の考え方について<資料2, 3>

<説明に関する質問・意見>

【中尾委員】

資料2の1ページ目。これは国・県の計画について書いてある部分のため市とは直接関係ないが、平成30年11月末ごろに「気候変動適応計画」が閣議決定されている。文言をそちらに変更した方がいいのではないか。また、気候変動適応法の条文の中で、努力義務としてではあるが自治体にも気候変動適応計画を策定するよう言っている。安城市環境基本計画としても文言を写しておいた方がいいかと思う。

【事務局】

国・県の計画等については最新の情報に合わせるようにする。気候変動適応計画については努力義務という事に加え、環境基本計画にどのように掲載するかを検討したい。熱中症対策など、健康面の施策も含まれるため。

【岩井委員】

資源循環の「廃棄物」の定義は何か。産業系の廃棄物も入るのか、市民としてのものか。

【事務局】

産業廃棄物も含め、安城市という自治体での廃棄物すべてが対象。

【中尾委員】

資料2の4ページ目。「理想とするまち」や4つの柱に書いてあることはわかりや

すい言葉でいいと思うが、国の第5次基本計画やSDGsを反映させているのだとしたら第5次基本計画でのキーワードとなる「地域循環共生圏」という言葉を使った方が国・県の施策とリンクする。SDGsであれば「持続可能」という言葉を入れた方がいいのではないかと。

【事務局】

「持続可能」という言葉については安城市全体の計画である第8次総合計画の見直しの中で出ている。環境基本計画は、この第8次総合計画の環境部門という位置づけのため、あえて入れなかった部分がある。「地域循環共生圏」は山も森もない安城市として国のイメージでは描きづらいというところがあり、委員の皆さんの意見をお聞きしたい。

【飯尾委員】

自治体の計画は国の基本計画を受けて作らないといけないのか。

【事務局】

そういうものではない。

【飯尾委員】

自治体の計画は市民に身近なものであるべき。市が計画を作っても市民の9割は読まない。運営の問題として、安城市民にどう落とし込むかを部内で議論してほしい。文言はどうでもいい。安城市民にとって一番大切なものは何かがきちんと書いてある方が大事だ。

【事務局】

国全体が動く中で安城市が果たす役割ということがひとつあった。市民に取り組んでもらいたい事項などを分かりやすく記載した冊子等を別途作ることを検討している。

【飯尾委員】

来年とは言わないが再来年になったら「SDGsってなに」となる。安城市に必要なことが結果的にSDGsに当てはまればいい。食品ロスにしろ、問題に取り組んでいる人は国連に言われてやっているのではなく、家庭でできることがいっぱいあるからやっている。「市民が主役」とよく言うがまさにそう。安城市民に伝わる内容にした上で、どうやって安城市民にお届けするのか、アクションの部分が重要だ。今、SDGsとうるさく言うことで感じる危機感に対して、やれることを一緒にやりませんか？と届けていく。

【会長】

市民が直接行動できることを基本計画に落とし込んでいくということで、議題(1)の議論については終了する。

<第2次環境基本計画の計画期間について>

【事務局】

議題にはないが、議題(1)に関連して、第2次安城市環境基本計画の期間について補足説明をさせていただきたい。第1次安城市環境基本計画は平成13年の3月に20年計画で策定し、5年ごとに見直しをしていた。時代の変化のスピードを鑑みて、第二次基本計画は10年計画にしたい。地球温暖化、SDGsの目標が2030年をターゲットにしていることもあり、安城市として2030年を目標にしたいという点

がある。第2次環境計画を10年計画にすることについてご審議頂きたい。

【飯尾委員】

計画期間は10年でも5年でも20年でもいいと思う、ローリングが問題だ。COP決定の中に入っているNDCの引き上げを日本政府がもうやらないように、いくら制度を作ってもそれを引き上げていかなければ意味がない。10年後の目標を今作るのは結構なことだが、時代が加速するかもしれないし、足踏みするかもしれない。必要に応じて臨機応変に柔軟に、色んな機会で市民の意見を聞きながら進めていくことの方が大切。これも運用の問題だと思う。

【大野委員】

市民に対して難しい言葉ではなく、理解できるように伝えていく必要がある。「SDGs」「サステナブル」はファッション雑誌でも出てくる流行語になっている。注目を集めるため、皆さんに見てもらおうためにそういった言葉を入れた方がいいかとも思う。

【会長】

色んな考えがあるが、市民が理解できることを、即物的ではなくてもいいかもしれないが分かりやすい言葉で書く必要はあると思う。

【都築委員】

50過ぎから始めた農業で、たとえば生ごみを埋めて、すべて土に還るということを周りの方に教えていただいた。安城という土地柄か、生産緑地を含め農業をすごく重視してこられたと思うが、どうも周りの環境を見ていると、畑は物が植えられて季節の野菜があるのが美しいと私は思うが、今は美しくない景色が増えてきた。農地がなくなっても意外に皆さん鈍感で、問題提起をされていても響いていなくて怖いなと思う。第1次計画では、何をやりましょうと課題を作って目標も設定して、それを評価した上で改定されてきた計画なのだと思うが、この計画を作る上で「あなたにできること」が未だに見えにくい。キャッチコピーでどうこうではないと思う。ただ、言葉がなければ誰も動かない。実践する方にヒントを与える項目をもう少し増やしていただくと、「私はこれをやっているんだ」「こうしたら地球のためにいいんじゃないか」という感覚になる。そういう言葉が今回の計画の中にちりばめられているといいなと思う。

【飯尾委員】

まさしくそこだと思う。生産緑地の指定は農業と農地の可能性のために何十年も前にできた制度。でもそれを今、SDGsと結び付けて考える人はいない。安城市にとって農業は大事。農業の持続可能性が危ういと現場の人が言っている。乱暴な言い方をすれば、CO2の削減目標を達成することよりこちらのほうが安城市にとっては大切だ。

【久恒委員】

未来を引き継ぐのは子ども。子どもでも分かるぐらいの言葉で、子どもたちが実際に家で出来て、お父さんとお母さんに指導できるぐらいの内容を。「私たちには関係ない」と思わないような計画にしてもらいたい。

【会長】

沢山意見をいただいた。議題（1）の補足内容としての議論については終了する。

(2) 市民・事業者における行動・取組調査の結果について

<説明事項>

【事務局】

- ・市民行動調査結果<資料4>
- ・事業者取組調査結果<資料5>

<説明に関する質問・意見>

【会長】

地域による違いはあるか。

【事務局】

データとしてはあるが、今回の資料には出てこない。

【浅田委員】

食品ロスを6年やっている。皆、頭では分かっているけど行動には移せない。安城市民が手をつないで行動を起こさないと。易しい、分かりやすい内容で行動につなげていくように。

【飯尾委員】

何百ページの計画を作っても、それが伝わらなければ意味がない。食品ロスとは家計ロスだ。流通ではデータがあって、7600億円の損失。地球に優しいことより、家計に優しいことが伝われば誰でも実行する。

【浅田委員】

たとえば牛乳の消費期限の短いものを陳列台の手前に置くとか、店側も努力しているが、買い手・消費者側は受け入れない。

【飯尾委員】

正しい消費の知識が必要だ。せっかくアンフォーレがあるのだからそこで講座をやるなど。食品ロスだけでなく電力消費についてもそうだが、達成率だけではなく「読んでもわからない」なら「どこがわからないのか」を調査してみたらどうか。民生部門で自治体がやるべきことはたくさんある。

【久恒委員】

排水口に缶詰の油を流さないとか、ネットをかけるとか、やっているつもりでも細かい方法が分からなくてできていない人がたくさんいる。流してはいけないなら水煮缶を買えばいいのか、紙に油を吸わせるのか、ネットの種類は何なのか。こうしたほうがいいですよ、だけではなく、細かいところまで市民にわかるように書いたほうがいい。

【浅田委員】

生活学校で調査したことがあるが、若い人は賞味期限をものすごく信用している。1日でも過ぎたらダメだと思っている。

【飯尾委員】

賞味期限は棚卸しの期限だ。賞味期限の導入前の人と若い人とで座談会して広報に載せるとか、そうしたことは効果があると思う。食品ロスのことに限らず、くらしの知恵は大切だ。

【鈴木委員】

アンケートの結果を計画に反映させるのかと、その説明があるのかと聞いていたが

スルーで残念。有効活用してほしい。笛だけ吹いても誰もついて来ない。

【中尾委員】

計画においては、市民にわかりやすい教育を徹底する、といった文言で定義した上で、実際の行動はアクションプランで書くのがいいと思う。

【飯尾委員】

教育は大事なことだと思うが、十分にやってきている中で、なかなか人がついて来ない。他の意識付けや啓発方法を考えていくべき。

【会長】

今回のアンケート結果をどのように計画に活かしていくか今後も検討してもらいたい。

4 その他

<来年度のスケジュールについて>

【事務局】

来年度の環境審議会は3回開催予定です。6月頃に計画の基本施策、推進方策の検討、10月頃にパブリックコメントに図るための素案の審議、2月頃に市長に対して計画策定の答申、という内容で予定しています。

(以上)